

活動報告書

- ① グループ名：横浜トリエンナーレサポーターおもてなしプロジェクト
- ② 提案名：「おもてなしマップ」をつくろう！
- ③ 助成を受けて行った活動の時期及び内容

月	活動内容
4 月	主要メンバーにて活動計画を検討。みなとみらい 21 地区住民と情報交換
5 月	サポーター活動キックオフミーティングの中でおもてなしプロジェクトに参加するメンバーを募集。みなとみらい 21 地区マンション連絡会に出席し活動紹介。
6 月	随時おもてなし情報の収集。5/31、6/1,2 第 33 回横浜開港祭にてブース出展し、来場者から情報収集を実施。サポーター活動キックオフミーティング ver.2 にて 7 月開催イベントにおける情報収集の方法について検討。
7 月	ヨコトリ 2014 開催 30 日前カウントダウンイベントにて、おもてなし情報を収集
8 月	おもてなしマップ「忘却」レイアウト作成。「海」「芸術」について情報収集。
9 月	おもてなしマップ「忘却」完成、ヨコハマトリエンナーレ 2014 にて配布。 「海」「芸術」レイアウト作成。
10 月	おもてなしマップ「海」「芸術」完成、ヨコハマトリエンナーレ 2014 にて配布 「中心」について情報収集。 「みなとみらい秋まつり」に出展、AR まち歩きを実施。
11 月	おもてなしマップ「中心」レイアウト作成。
12 月	おもてなしマップ「中心」完成。
1 月	「第 47 回 地図展 横浜のまち みち みなと」に出展・展示、おもてなしマップ 4 種類配布。おもてなしマップ総集編の編集。
2 月	おもてなしマップ総集編のレイアウト作成。
3 月	おもてなしマップ総集編の完成。 「おもてなしプロジェクト まち歩きイベント：めぐるみなとみらい 21 まちを歩いてクイズ&ビンゴ」の開催



5 月キックオフミーティングの様子



第 33 回横浜開港祭での活動



7月カウントダウンイベントでのリサーチ風景



10月みなとみらい秋まつり ARまち歩きの様子



3月まちあるきイベント「めぐるみなとみらい 21 まちを歩いてクイズ&ビンゴ」の様子



④ エリアマネジメントにおける効果

当該活動は、横浜トリエンナーレサポーターが中心となって、みなとみらい 21 地区の魅力を来街者、または、ヨコハマトリエンナーレ 2014 の来場者にお伝えするものであり、市民目線で魅力発信ができたことは、従来の当地区のプロモーションとは違った趣向を提示することができたと考えられる。

特に、ヨコハマトリエンナーレ 2014 のテーマ「華氏 451 度の芸術：世界の中心には忘却の海がある」より「忘却」「芸術」「中心」「海」という 4 つのキーワードを選出し、情報をまとめる指針に据えたことで、港町横浜を横断的に紹介することができたと言える。これらを配布することで、来場者、来街者は自らの興味に照らし合わせ、手に取ることで、みなとみらい 21 地区の新しい楽しみ方を提供することができた。さらには、それら 4 種類のマップを総集編としてひとつにまとめることで、総合的に楽しむことができる地図を提供することができたといえる。

完成したおもてなしマップ総集編は、さらにみなとみらい 21 地区に立地する企業や当地区に住まう方に配布することで、地域魅力を感じてもらい、地域への愛着が高まるきっかけとして役立てたい。

⑤ 今後の活動展望(課題や活動の広げ方、継続性 等)

今後の活動としては、ヨコハマトリエンナーレ 2017 の開催を目指し、今回調査し収集した情報をもとにさらなる情報収集を段階的に目指していく。その中で、2 年間活動を継続していくことは困難な部分もあることから、短期的なチーム結成を通じて、より幅広いテーマのもとにサポーター自らの興味に則した情報収集を目指していきたい。そういった活動を積み上げていくことで、活動を断続的に進め、2017 年にはまた来場者、来街者をおもてなしするツールを用意していくことを目指していく。

一方で、今回みなとみらい 21 地区の住民との連携という面では、一部の住民とのつながりのみで大きな連携に至っていないという課題もあった。次年度以降は、断続的な活動の展開にはなるものの、さまざまな接触面を多様に用意していきたいと考えている。そのようなつながりや情報共有を経て、みなとみらい 21 地区を代表するイベントのひとつとして横浜トリエンナーレが認識されていくことをサポーター活動としては目指していく。

